（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和　1年8　月1　日	評価結果市町村受理日	令和元年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

有明海を望む高台に、通所介護、高専賃、有料老人ホーム、支援ハウス、保育園等の施設があり、施設間の交流もあり、敬老会、夏祭り、保育園の運動会など、近隣の方や保育園の保護者、子供たちとのふれあいがあり、喜んでいらしゃいます。 毎日、入浴の時間を設け、ゆっくりと、入浴を楽しんでくださいます。　職員と利用者のふれあいの時間として、食後の時間を大切にしています。　職員一同、皆様が明るく、元気に楽しく、その人らしく、暮らせる様に支援させて頂いてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは目の前に有明海、後方に雲仙・多良岳を臨む自然に囲まれた場所に位置している。ホームからは有明海とともに同法人の保育園児が遊ぶ姿を見ることができ入居者の癒しとなっているほか、保育園の夏祭り・運動会への参加や中学生の福祉体験を通して地域との繋がりを深めるとともに入居者の喜びへと繋がっている。管理者は島原半島グループホーム連絡協議会の役員を担っており、職員の各種研修会への参加にも力を入れている。ホームでは月1回協力医による往診で入居者の健康管理に努めるほか、看取りに関しても詳細な同意書を整備し、できる限り本人や家族の希望に沿うよう努めている。また、協力医療機関の理学療法士による訪問が週1回あり、リハビリ体操や個別リハビリを全入居者に実施し身体機能の維持や向上を図っている。ホームでは入居者一人ひとりのペースに合わせた食事・就寝時間・トイレ・外出の支援を行っており、入居者本位の温かみが感じられるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　グループホーム花応園

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす。という理念を掲げ頑張っています。	ホームでは年間目標を設定することで職員の意識を高め、理念の共有を図っている。職員は職員会議で理念の実践状況を振り返るとともに、より理念に沿うことができるよう提案・話し合いを行うことでその後の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は、行事に参加する事で、声掛けをして頂いている。	ホームは同法人保育園の夏祭り・運動会や町の文化祭見学など、地域の行事へ積極的に参加し交流を深めている。中学生の福祉体験の受け入れを通じて高齢者との関わり方を伝える機会となった。園児や中学生と交流することが入居者の喜びへと繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭など、町内の行事に、数名だけでも参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束ついて、利用者の状況報告、自己評価や外部評価の報告、研修会の報告などを行っている。	運営推進会議には行政・民生委員・家族の参加があり、活発な意見交換の場となっている。参加者からの助言は業務内容の振り返りに活かしている。会議では身体拘束についても話し合い、職員のケアに対する意識統一を図っている。会議録はホームに掲示するほか、ホーム便りと一緒に家族へ郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の方や推進会議の担当者には、園内を見て頂いている。	ホームは運営推進会議や介護保険関係の手続きの際、市担当者へホームの取り組みを伝えることで相談しやすい関係を築いており、担当者と連携を図ることでスムーズなホーム運営に繋げている。島原地域広域市町村圏組合主催の研修会には全職員が参加し知識を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、外部の研修会に参加したり、内部研修を行ったりしている。推進会議でも、報告、している。	ホームでは身体拘束に関する外部研修に参加することで、職員の支援内容の振り返りやケアに対する意識統一を図っている。職員は言葉での行動抑制にならないよう互いに声を掛け合い意識しながら対応している。また、医師と連携して内服薬を調整したり行動の理由を話し合う機会を持ったりすることで身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても、外部研修に参加するようにしている。言葉かけについても、注意するようにしているが、まだまだ、問題がある		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方は、いらっしゃらない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し説明は、行っている。要望も尋ねている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を利用しているが、ほとんど回答がない。 他の関連施設で、聞いたときは、連絡して頂くようにしている。	運営推進会議での家族からの意見や要望について、その都度職員で話し合い対応している。毎月発行する花応園だよりには職員が個別に入居者の暮らしぶりについての手紙を添え、写真とともに郵送することで家族とコミュニケーションを図りやすくする工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で情報交換、行事予定等話し合っている	ホームでは2か月に1回の職員会議だけでなく、入居者に関する提案があった場合はその都度話し合いを行い改善を図っている。職員全員で業務を分担し各役割から意見を出して運営に反映することで、職員一人ひとりが責任を持って業務に取り組むことへと繋がっている。	職員と入居者の関わりは多くあるものの、支援内容の記録に課題が窺われる。記録内容を可視化することで職員間での情報が共有しやすくなると思われるため、例えば、職員の介護に対する入居者の反応や言葉を記録に記載するなど、今後の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどおりに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格試験等受けるように声掛けしている。広域圏の研修や、グループホーム協会の研修等全員がどれかに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の役員会や研修などで情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の入居者がほとんどであるが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は何時でも受け付けている。 入所前については、面会したり、空き次第直ぐに連絡する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅ケアマネジャーを通して、相談に来られる事がほとんどである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌を歌ったり、レクレーション等を通して教えたり、教えられたり、している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族や、利用者様に任せている。出来るだけ、面会に来て頂けるようにしているが、家族が、遠方の方もいらしゃるので、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんどない。通所介護、利用者の中には、近所の方や、知り合いの方がいらしゃるので、面会して頂いている。	ホームでは入居者の家族や知人の面会の際、お茶を出したり居室に椅子を準備したりして話しやすい空間づくりに努めている。また、外出や面会について時間を設定しないなど柔軟に対応することで、家族がいつでも面会に来やすいよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声掛けしている。場合によっては、職員が間にいるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさる方はほとんどが、入院中に死亡なさった方で、入院中に面会して家族とコミュニケーションを取るようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても、理解できてない方もいらっしゃるが、出来るだけ、表情や行動で理解、把握する様に務めている。	職員は昼食後に入居者とゆっくりと話す時間を設けることで思いの把握に努めており、会話が不自由な方については表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。入居者より聞き取った要望は記録に残し、申し送りにて職員間で共有し日々の実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、本人が話せる方は、本人の意向を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の、体調や、心身の状態をみて、過ごし方を判断している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見と家族の意見を聞き、モニタリング表を作り、職員で話し合っている	ホームではサービス担当者会議にて入居者・家族の意向に沿った介護計画を立案し、3ヶ月毎に評価及び内容の見直しを行っている。退院後や身体状況の変化時には再度担当者会議を開催し、入居者・家族の意向を把握し現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい、墓参りがしたいとおっしゃる方は、家族の協力のある方は、自由に外出して頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通じて、地域とつながるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自に、愛野記念病院との関係を持ち、月１回往診をして頂いている。急変時や夜間の受け入れも対応して頂いている。	ホームでは入居前のかかりつけ医を受診できるほか、ホーム協力医による往診も月に1回ある。入居者の状態をかかりつけ医と協力医で情報共有するとともに、夜間や緊急時についても協力医に対応してもらえるなど協力関係を構築している。また、内服薬の変更や検査などがあれば家族に電話にて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っているため、情報も職員全員で共有している。何かある時は、看護師に指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早く、退院させて頂けるように、相談したり、面会の時は、地域連携室をたずねるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りについてのアンケートを実施したり、園が対応し得る最大のケアについて説明している。	今年度、ホームでは全入居者家族を対象に「意思確認書」の説明を行い、現段階で家族がどのような看とりの意向を持っているのか確認の機会を持った。今後も状況に応じて「看取り介護同意書」の説明を行いながら、できる限り入居者や家族の希望に沿えるよう努めていく意向にある。また、今年度は看取りについての研修会にも参加を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。職員全員が普通救命講習を受講する様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練については、定期的に行っている。地震についても、話し合っている。	今年度の台風被害で停電になったことを受け、ホームでは台風時の対応について新たに話し合いの機会を設け、カセットコンロの購入や鍋でご飯を炊く方法をレシピに追加した。避難訓練は昼間・夜間想定の訓練を法人内とホームとで計5回実施している。また、有事の際には入居者の見守り対応をしてもらえるよう前民生委員との協力体制も築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになったり、厳しい声掛けになっているときがある為、注意するようにしている。	職員はグループホーム連絡協議会主催の接遇マナー研修に参加し、言葉遣いや入居者への関わり方について知識を深めるとともに、尊厳についての意識向上に繋げている。不適切な言葉遣いがあった時は職員同士でその都度注意し合い、改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面も、作っているが、重度化に伴い、決めることが出来ない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望通りにすることはできませんが、できる限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものです。髪については、園でカットしたり、家族がカットしてくださったり、色々です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲で色々と手伝って頂いている。	ホームではゆっくりと食事を楽しむことができるよう入居者に合わせた食事形態を提供し、席の配置にも配慮している。職員は季節毎に梅干し・まんじゅう・干し柿づくりを入居者と一緒に行うことで楽しみや昔を思い出す機会へと繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいかないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持って来て下さった物は、利用者全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛けしている。義歯の方は、夜、洗浄液につけるようにしている。出来ない方は、職員が介助している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行っている。尿意便意のない方も、時間を見て誘導することで、トイレでの排泄が出来る様に支援している。	職員は入居者一人ひとりの能力に応じた介助方法や補助具の使用を検討するほか、起居動作など日常生活の中でリハビリを行うことでトイレで排泄できるよう取り組んでいる。尿取りパットの適正な使用についても使用する時間帯などで検討し、常に見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操と水分補給を行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方は、いらっしゃらないが、一人一人に合わせた入浴の支援を心掛けている。	ホームでは入居者の希望に沿って毎日入浴することができる。職員は入居者本人の好むシャンプーの使用や季節に応じてゆず湯を準備するなど、入浴が楽しいものになるよう努めている。重度の方についてはリフト浴にて安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事などを工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、季節や地域の行事に応じて戸外に出かける様にしている。	季節を感じる桜・つつじの花見や町内の文化祭見学は入居者の楽しみとなっており、園内には花木も多く、ゆっくり散歩をすることで気分転換を図っている。家族との外出時には尿取りパットの使用などで排泄の調整を行い、家族と楽しい時間が過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。夏祭りで買うくらいで、店で購入することは、ほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを行う方はいらしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から有明海が見渡せ、近所も見渡せる。すぐ下には、グラウンドがあり、色々な花木を楽しめる。	食堂の窓からは有明海や同法人保育園のグラウンドを見ることができ、地域を身近に感じられることによって入居者へ安心感を与えている。リビングには畳の間や一人ひとりにあった椅子を準備し、寛げる空間づくりに努めている。停電時の非常灯も設置してあり安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーをいろんなところに置いており、それぞれに応じて好きなところ座って頂ける。居室にも、自由に出入り出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	居室の大きな窓からは日光が入り明るく温かみが感じられ、入居者の好みに合わせた観葉植物や窓から見える芝生にて落ち着く空間となっている。室内は毎日の清掃で清潔に保たれ、停電時の非常灯も設置され安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて配置や、補助具等を利用している。		